

カニの分布

■干潟内のカニの分布

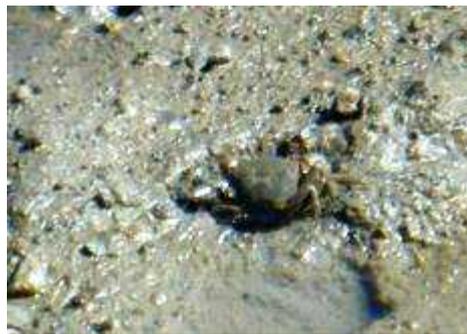
9月に入り、干潟内のカニの分布を調査した。蒲生干潟は砂地の部分が広く、砂地を好むコメツキガニ (Fig. 1) が数多く見られる。アシハラガニ (Fig. 2) は破損した堤防の陰に生息しており、干潟北部に回復してきたヨシの近辺にも多くの巣穴が見られた (Fig. 3)。クロベンケイガニは干潟南西部の狭い範囲にのみ確認できた。ケフサイソガニ (Fig. 4) は転石付近や導流堤に生息していた。

今回の調査では、これまで見られなかったイソガニ (Fig. 5) を4匹確認した。イソガニは、はさみに柔らかい袋があり (Fig. 6)、塩分濃度が低いところにはあまり生息しない。以前見られなかったイソガニが見られるということは海水の影響が強くなった可能性が考えられる。

次回の調査では干潟の南側、七北田川河口域を中心に分布を確認したい。また、4月からの調査の結果を踏まえて分布を地図にまとめる予定である。



(Fig.1 コメツキガニ)



(Fig.2 アシハラガニ)



(Fig.3 アシハラガニの巣穴)



(Fig.4 ケフサイソガニ)



(Fig.5 イソガニ)



(Fig.6 はさみの袋)

■豪雨の影響

宮城県では9月11日(金)に豪雨が降り大きな被害が出たが、蒲生干潟でもその影響が見られた。Fig. 7は水が出入りする導流堤の低い部分であるが、砂が堆積し完全にふさがっている。生息場所を失い砂の上を移動するイソガニが見られた。



(Fig.8 砂の上を歩くイソガニ)



(Fig.7 砂が堆積した導流堤)